

【目次】

1. ユニテリアンと社会運動研究会第7回勉強会を開催、6月9日！
2. 日本労働会館評議員会を開催、6月5日！
3. 連載「日本労働会館物語」第56回（日本労働会館に結集した人々―村井知至その2―）

1. ユニテリアンと社会運動研究会第7回勉強会を開催、2月18日！



友愛労働歴史館のユニテリアンと社会運動研究会は6月9日（火）午後、ユニテリアン教会説教師でキリスト教社会主義者、英語学者の村井知至を取り上げ、「村井知至―その思想と生涯」をテーマに、倉橋桂子氏（村井知至研究者）から報告を受けました。

日本の社会主義運動は、ユニテリアン教会・惟一館に結集したユニテリアンが主導しています。明治31（1898）年に村井知至や安部磯雄らにより社会主義研究会が結成され、これが社会主義協会を経て、明治34（1901）年に日本最初の社会主義政党・社会民主党へと発展しています。

村井知至はこの社会主義研究会会長であり、日本で最初の本格的な社会主義理論書『社会主義』の著者です。また、村井はアメリカ留学中に片山潜や成瀬仁蔵と親交があり、その縁で労働組合期成会の評議員を務め、日本女子大の創設に協力しています。

村井知至の研究をしている倉橋桂子氏は、1996年の論文「村井知至の修養観―明治人の思想遍歴を辿って―」（『アガトロギア研究』第6号）で、村井知至の生涯とその思想遍歴について発表しています。

今回の勉強会で倉橋氏は、①村井知至の生涯、②村井知至の思想遍歴、③村井知至の『社会主義』（明治32年刊行）について報告しました。報告の中で、ユニテリアンの説教師として、また社会主義運動の先導者として活躍していた村井知至が、やがてキリスト教からも社会主義運動からも離れ、「思想遍歴」を経て「日本的回帰」を果たしていく姿が紹介されました。

今日、村井は教育者・英語学者として記憶されています。しかし、彼が一時期のユニテリアン運動と社会主義運動を担っていたことは、きちんと記録されるべきでしょう。

2. 日本労働会館2015年度評議員会を開催、6月5日！

一般財団法人日本労働会館は6月5日（金）午後、当館研修室において2015年度評議員会を開催しました。評議員会は議長と議事録署名人を選出した後、2014年度事業報告として①友愛労働歴史館関連報告、②労使関係研究協会関連報告、③ホテル三田会館関連報告などを確認しました。

議案では第1号議案「2014年度決算報告及び公益目的支出計画実施報告に関する件（決算報告、公益目的支出計画実施報告、監査報告）」、第2号議案「2015年度の常勤役員に対する報酬の件」を、何れも提案通りに決定・確認しました。

3. 連載「日本労働会館物語」第56回（日本労働会館に結集した人々―村井知至その2―）

今回はメールレポート「友愛労働歴史館たより」第92号（4月4日付）の「日本労働会館に結集した人々―村井知至その1―」に続く第二弾で、村井知至の思想遍歴について紹介いたします。但し、本稿はユニテリアンと社会運動研究会（2015.6.9）での倉橋桂子氏の報告ポイントを記載しています。倉橋氏の報告レジュメをご希望の方は、当館までEメールでご連絡ください。

村井知至の思想遍歴（村井における東洋思想と西洋思想の統合と人間観）

- ・幼くして漢学（四書五経）を学び、少青年期に民権思想に触れている。
- ・横浜で英会話を学び、病気を契機にキリスト教に回心。
- ・新島襄の強い感化を受ける。同志社における熊本バンドとの接触。新神学への関心。
- ・アンドーヴァーでの研究。異端としての人間主義、ユニテリアン思想に帰依。神を万物自然、人間に普遍的に内在する神として捉える。陽明学の天の理法に重なる。敬天愛人。知行合一。進化論と矛盾しない合理神学。神を万有の内に遍在する進化力と受け止める。人間がこの宇宙の理法に逆い、外れれば、自滅の道を辿る（進化が退化になる可能性）。知的生物の宿命？蛙がうらやましい。「死んだとて 世はそのまもの 蛙かな」。日本のエマーソンを自負。
- ・神性を宿す人間はその本性から真善美を慕うように、定められているという自覚。
- ・産業革命後の功利主義社会進化論（優勝劣敗・弱肉強食）、文明に対する鋭い批判。
- ・ソクラテス、イエスに共通する偉大さは「よさ・善」に対する人間としての無知の知の自覚があったことであるとする。
- ・生来、人間はよく生きようとはするが、神ではない身として永遠によく生きることはできないという自覚。神と動物の中間として生きる。
- ・教育者として生きる。ソクラテス：教育は最大の政治術。ペスタロッチー：私の政治の始めと終わりとは、教育である。よく生きようとする人間をよくしようとする人間、その特有の働きかけ「教育」は、人間の必然的な営み。
- ・「非宗教時代」人の心が神の宮。「性善説」「性悪説」ではない。

また、倉橋氏は報告の中で村井知至著『社会主義』を取り上げ、その構成・内容を紹介しつつ、『社会主義』の持つ今日的な意義について述べています（詳細は略）。

『社会主義』 村井知至著・明治32（1899）年刊行

第一章 欧州現時の社会問題	第二章 社会主義の定義	第三章 社会主義の本領
第四章 社会主義と道徳	第五章 社会主義と教育	第六章 社会主義と美術
第七章 社会主義と婦人	第八章 社会主義と労働組合	第九章 社会主義と基督教
第十章 理想の社会		

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairodokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodokishikan.com>

惟一館から121年、友愛会から103年